

JAPAN GOLF ASSOCIATION

# JGAGolf Journal



# 影響と今後 新型コロナウイルス感染症拡大の

ゴルファー 1人1人がゴルフを支える存在。  
一緒になってゴルフを守り、  
コロナ禍からの復興を目指しましょう



マスクを着用するなど感染予防対策を講じながらインタビューに答える山中専務理事

——新型コロナウイルス感染症拡大に対して日本および世界のゴルフ界はどのように動いたのでしょうか。

山中 R&AやUSGAは早い時期からコロナ対策のガイドラインなどさまざまな情報を発信していました。我々JGAも前向きなメッセージを出す準備はしていました。しかし、国から認可を受けた公益法人であるため、政府などの指示に従うということが基本です。政府が外出自粛を呼びかけているにもかかわらず「ゴルフは感染のリスクが高いスポーツではありません。こんな時だからこそ健康のためにもゴルフをしましょう」というようなメッセージは、出したくても出せないもどかしさがありました。ですから、当初はR&Aなどが発信している情報や取り組みを和訳してJGAのウェブサイトに掲載するなど、できる範囲のことをやるしかありませんでした。これに対して「なぜJGAはゴルフ界を守るために積極的に動かないのか」というお叱りを各方面から受けたという事実はあります。

新型コロナウイルス感染症拡大はゴルフ界も直撃した。実際にどのような影響があったのか、JGAをはじめゴルフ界はどのような対策を講じたのか、そして今後は——JGA 山中博史専務理事が語った。

——JGA加盟クラブからの声はいかがでしょう。

山中 今回、特に大きな影響を受けたのは全国のゴルフ場だと思います。緊急事態宣言中はプレーを控える方が増えましたし、コンペは軒並み中止。来場してもスループレーで昼食をとらずに帰宅するケースが増えましたし、ビジターの来場は激減。経営がひっ迫しているという声があちこちから届いています。海外ですと、たとえばR&Aは感染拡大の影響で経営が苦しくなった英国内のゴルフ場を支援するために700万ポンド(約9億1000万円=発表時のレートで計算)の支援基金を設立すると5月に発表しました。USGAも同様の基金を設立しています。彼らは全英オープンや全米オープンで得た多額の収益金を原資にできますから、正直、うらやましいところはあります。我々は先ほど申し上げたような事情で当初はなかなか動けず心苦しいばかりでしたが、JGA加盟クラブの皆さんに見舞金を出させていただくことになりました。金額的にはわずかですが、少しでも我々の気持ちを表すという意味だと、とらえていただければ幸いです。

——ゴルフ産業全体への影響も甚大ですね。

山中 その通りです。東日本大震災やリーマンショックを大きく上回る影響になると考えています。

——JGAあるいは各地区連盟主催の競技も感染拡大で中止を余儀なくされるケースが相次ぎました。

山中 はい。JGA主催競技で言いますと、4月27日に日本ジュニアゴルフ選手権、日本学生ゴルフ選手権、日本女子学生ゴルフ選手権、全国小学生ゴルフ大会の開催中止を発表しました。先にこれらの大会の中止を決定した理由はいくつかあります。選手の多くが未成年であること、全国大会を実施するにあたって各地区の選手権を開催する必要があることなどに鑑み、早くジャッジした方がいいと考えました。選手の皆さん、特に“最後の大会”となる高校3年生や大学4年生の選手には今も申し訳ない気持ちでいっぱいです。そして、6月5日の理事会では先に「10月以降に延期」とアナウンスしていた日本アマチュアゴルフ選手権、日本女子アマチュアゴルフ選手権を含むJGA主催アマチュア選手権全競技の中止を決めました。我々としては特に日本アマチュアゴルフ選手権と日本女子アマチュアゴルフ選手権は何とか開催したいという気持ちでしたが、各地区連盟主催の選手権の中止や第二波が心配される中で移動・宿泊に伴う感染リスクが払しょくできないことから苦渋の決断をいたしました。

——秋に予定している日本オープン、日本女子オープン、日本シニアオープンの3オープン競技は開催の方向ですね。

山中 ナショナルオープンは、ゴルファー NO.1を決めるその国のフラッグシップトーナメントですし、例え大会の規模を縮小してでも何とかして開催したいと思っています。ただし、多くのプロツアー競技が中止になったことなどから参加資格を変更して開催の準備を進めており、7月から地区予選を実施しており、8月下旬から最終予選を開催する予定です。

——コロナ禍はJGAの財政も直撃しています。

山中 我々の財政基盤は加盟クラブの会費、3オープンの事業収入、スポンサー収入などが主なものです。先ほど申し上げたように加盟クラブは苦しい状況に陥っていますし、多くのスポンサーも同様だと思います。それに加えて3オープンが中止にでもなれば、非常に厳しい状況に追い込まれます。ほかに国などからの助成金もありますが、今、国はコロナ対策に多くの予算をつぎ込んでいますから、どうなるか分かりません。今は削れるところは削り、支出を減らす努力をしているところです。他の競技団体の中には資金難で東京2020オリンピックに向けての強化に影響が出るどころか存続の危機に陥っているところもあるようです。

——その東京2020オリンピックですが、来年に延期となったことによる影響はいかがですか。

山中 会場に関しては変わらず霞ヶ関カンツリー倶楽部で開催することで合意しているので心配はしていません。我々としては選手が安心、集中して、快適にオリンピックでプレーできる環境を整えることに引き続き全力を尽くすだけです。

——将来オリンピックを目指すナショナルチームの選手たちの強化にも支障が出てきているのではないのでしょうか。

山中 国際試合も次々に中止や延期になりましたし、合宿もできない状況です。オーストラリアにいるガレス・ジョーンズヘッドコーチと選手たちをオンラインで結んで練習やトレーニング方法を提供したり、悩みを聞いてもらったりしているのが現状。チームメンバーたちは、せっかくナショナルチームに入って頑張ろうという時にこのようなことになってしまって、本当に気の毒です。



感染症防止対策をイラストで表現し、ゴルフ場・ゴルフ練習場・ゴルフショップ・トーナメント会場、その他ゴルファーとの接点となるポイントで活用して頂ければと考え作成された新型コロナウイルス感染症対策 啓発活動用ポスター

来ています。また、日本プロゴルフ協会、日本女子プロゴルフ協会、日本ゴルフツアー機構、日本ゴルフトーナメント振興協会、そしてJGAの5団体が「ゴルフ関連5団体新型コロナウイルス対策会議」を立ち上げて国内のプロゴルフトーナメントにおける共通のガイドライン作成に取り組み、5月20日に発表しました。ガイドラインは、状況に応じた内容に改訂を行っています。ガイドライン作成にあたっては、日本野球機構と日本プロサッカーリーグが共同で立ち上げていた「新型コロナウイルス対策会議」とも連絡を取り、多くのアドバイスをいただきました。我々のガイドラインの監修者である感染症専門医の炭山嘉伸東邦大学理事長も彼らから紹介していただきました。

——緊急事態宣言中にはゴルフ練習場にゴルファーが詰めかけて「密」の状態になっているというネガティブな報道もありました。

山中 あたかも「このような状況下でゴルフをするのはけしからん」みたいな、ゴルフを悪者にミスリードするような報道がいくつ

かあったのは事実です。これに対して全日本ゴルフ練習場連盟とJGAが共同で民放連（日本民間放送連盟）に「あのような報道は控えていただきたい」という内容の文書を送付いたしました。明確な返事はいただいていませんが、以降はそのような報道は減ったと感じています。

——緊急事態宣言が5月25日に全国解除されたことで、止まっていたものが少しずつ動き始めました。

山中 冒頭で申し上げたように当初はメッセージを出すことも難しい状況でしたが、スポーツ庁からもお墨付きをいただき、5月30日に「ゴルフを愛する皆様へ」というメッセージを発信することができました。内容は「新しい生活様式を励行しながらゴルフを大いに楽しみましょう」というもの。現在の状況下で我々ゴルファーが出来ること、守らなければならないこと、しなければならないことなどをまとめています。また、JGAウェブサイト各ゴルフ関連団体が独自に出しているガイドラインなどを一覧にしています。

6月に作られた2種類のデザインに追加して新たに作られた新型コロナウイルス感染症対策 啓発活動用ポスター 石川遼プロや渋野日向子プロも趣旨に賛同しポスターに協力してくれた



地域振興も含めてゴルファーの増加に繋げていきたいと考えています。

——日本では昼食休憩つきのプレーが主流ですがコロナ禍でスループレーが増えるなどプレースタイルに変化が表れています。

山中 プレー時間の短縮や他人との接触を極力避けるという観点からも、新しいゴルフの楽しみ方を構築できる可能性はたくさんあると思います。たとえばマッチプレー。2人でできる、ホールアウトしなくてもよいなどストロークプレーに比べてプレーヤー間の接触を避けることが可能です。もともとマッチプレーはゴルフの原点であるわけですが、この機会に是非、皆さんにも試してみてくださいと思います。ほかにもフォアサムやフォアボール、ステーブルフォードなどに挑戦してみるのもいいのではないのでしょうか。また、6月に再開した米国のPGAツアーでは感染防止のため選手がクラブを自分でバッグから出し入れするようにしています。ゴルフは本来、自分のことは自分でするスポーツ。原点に戻るきっかけになると感じていますし、そういうこともプロモートしていきたいと考えています。

——最後に、ゴルファーの皆さんにメッセージを。

山中 ゴルフは、老若男女が、三密を避けながらプレーできるスポーツです。各自でいろんな楽しみ方を見つけ、プレーを楽しんでいただければと思います。我々は、ゴルフの素晴らしさを知っていただくためにさまざまな発信をしてみたいです。ゴルファーの皆さん1人1人がゴルフ界を支えています。皆さんの愛するゴルフという素晴らしいスポーツを皆さんで守り、楽しんでいただければと思います。

——そのメッセージに付随してゴルフ関連16団体で組織する日本ゴルフサミット会議で「新型コロナウイルス感染症対策啓発活動用ポスター」も作成しましたね。

山中 はい。ゴルフ界が一体となって取り組んでいきたいと思います。ようやく、このような活動ができるようになってきたということですね。石川遼プロや渋野日向子プロにも協力していただきとてもありがたかったです。今回のコロナ禍で改めて感じたのはゴルフ界がひとつにまとまることの大切さです。これは、私だけでなく各団体の皆さんも口にしていることです。こんな小さな国なのにたくさんのゴルフ関連団体があり、人もお金もバラバラに動いている。非常に無駄があるわけです。今回サミット会議でポスターをつくる、あるいは5団体と一緒にプロゴルフトーナメントのガイドラインをつくるなど、ひとつにまとまる下地ができたのではないのでしょうか。これをきっかけに本当の意味でひとつにまとまるべきで、JGAがその中心的役割を果たしていかなければならないと感じています。

——これからは「withコロナ」の時代だといわれています。その中でJGAが果たすべき役割をどのように考えているのでしょうか。

山中 ゴルフ場やゴルフが持つ社会的貢献機能をもっと知っていただけるようにアピールしたいですね。ゴルフ場利用税問題や国家公務員倫理規程（公務員は利害関係者とゴルフをすることが禁止されている）など、まだ一部でゴルフはぜいたくなスポーツで、過剰接待等の悪の温床だというイメージが残っています。何故ゴルフだけが他のスポーツと違う差別を受けているのか？そういうことを払しょくしなければならない。たとえばゴルフ場があることでその地方の雇用や地産地消、道路の整備などに貢献していることや災害時の拠点として活用できることをアピールしていきたいですね。また、ゴルフ場は自然破壊の元凶という間違った認識があります。ゴルフ場は生物の生態系維持に非常に役立っていますし、二酸化炭素を吸収して酸素を出すという大切な役割も果たしています。そして、健康寿命を延ばし、認知症予防としてもゴルフは大きな効果をもたらすことが世界でも証明されつつあります。我々JGAはゴルフの普及、振興を進めることが大切な役割ですから、このようなゴルフの社会的貢献機能を広め、

# ゴルフ場における新型コロナウイルス感染症対策について

## — 日本国内の小規模ゴルフ競技(非興行型アマチュアイベントやプロも参加する小規模予選会を含む)における新型コロナウイルス感染症対策・運用事例

公益財団法人日本ゴルフ協会は、「ゴルフ関連5団体新型コロナウイルス対策会議」が5月20日に発表した「国内プロゴルフトーナメントにおける新型コロナウイルス感染症対策」をもとに、感染症専門医である東邦大学炭山嘉伸理事長監修のもと、「日本国内の小規模ゴルフ競技(非興行型アマチュアイベントやプロも参加する小規模予選会を含む)における新型コロナウイルス感染症対策並びに運用事例」を作成いたしました。本資料は、ゴルフ場が開催するクラブ競技、非興行型のアマチュア向け競技、プロフェッショナルゴルファーも参加する予選会などの競技における新型コロナウイルス感染症対策と運用事例をまとめたものです。なお、本資料は感染状況の変化や政府の対策方針などにより、都度改定し、当協会ホームページでも公開いたします。

本資料は日本国内のゴルフ場やゴルフ競技団体が開催している、ごく一般的なゴルフ競技会を想定し新型コロナウイルス感染症予防の観点から主催者や開催ゴルフ場が行うことのできる準備、諸注意事項を記しています。競技会の事前準備や運用について具体的な事例を記載しておりますのでご参照頂くと同時に、競技会場の開催環境等を踏まえて各競技会の実情に照らし合わせながら、できる限りの予防策を講じたうえで参加選手や関係者の安全を確保することを第一の目標としてご準備をお願いいたします。また、その前段階である開催の決定にあたっては、政府や地方自治体の要請・指導を基に注意深く判断し、大会主催者として適切な環境下での開催が求められますことにご留意願います。

### 1. 競技会開催前にできること

#### 開催にあたって

一部本資料と重複する箇所もありますが、別紙「日本国内の小規模ゴルフ競技(非興行型のアマチュアイベントやプロも参加する小規模予選会を含む)における新型コロナウイルス感染症対策について」に記載されている開催にあたっての感染拡大リスクや政府・地方自治体からの要請や指導を考慮して開催を検討してください。開催する場合は感染症拡大予防の対応を講じることが必要です。

参考  
[http://www.jga.or.jp/jga/jsp/championship/news\\_detail\\_17286.html](http://www.jga.or.jp/jga/jsp/championship/news_detail_17286.html)

#### 参加申込み受付時にできること、参加前の選手へのお願いや告知

2020年5月14日(公財)日本スポーツ協会が発信した【スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン】には以下の記載があります。参加申込みを受ける段階において、このような事を主催者として、あらかじめ出場選手に告知しておくことは感染拡大の予防に役立ちます。

- ①以下の事項に該当する場合は自主的に参加を見合わせる。 (イベント当日に書面で確認をおこなう)
  - ア. 体調がよくない場合(例:発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合)
  - イ. 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
  - ウ. 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- ②マスクを持参すること。  
 (参加受付時や着替え時等のスポーツを行っていない際や会話をする際にはマスクを着用すること)
- ③こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること。
- ④他の参加者、主催スタッフ等との距離(できるだけ2m以上)を確保すること。  
 (障がい者の誘導や介助を行う場合を除く)
- ⑤イベント中に大きな声で会話、応援等をしないこと。
- ⑥感染防止のために主催者が決めたその他の措置の順守、主催者の指示に従うこと。
- ⑦イベント終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること。

#### 出場者、関係者への連絡手段の構築

万一、事後も含めて競技会場における感染が確認された場合、また開催当日に陽性者が会場にいた(感染の可能性が高いと判断された)ことが判明した場合に、二次感染の予防のために速やかにその状況を出場選手や関係者に知らせることのできる体制をあらかじめ整えておく必要があります。主催者や開催コースのホームページも使うことも必要ですが、参加者へダイレクトに周知が可能なメールでの案内が最も有効でしょう。そのためには申込段階において取得する出場者の連絡先情報(メールアドレス等)の収集を考慮する必要があります。

#### 緊急時の相談先の選定

多くの人が集まる競技会において、陽性者の存在が明らかになった際の対応もあらかじめ想定しておくことが重要です。別紙「日本国内のゴルフ競技(非興行型のアマチュアイベントやプロも参加する小規模予選会)における新型コロナウイルス感染症対策について」では指定医療機関との連携体制の構築について記述しています。近隣の救急対応病院や所轄保健所などの事前確認は誰もが準備可能な事です。

#### 来場者の制限

感染症の基本的な対策方法に「密の状況避ける」ことは広く周知されていますが、その実現のためには来場者を極力減らすことが一つの手段となります。具体的には選手の家族や応援、関係者、車への同乗者(送り迎えも含む)のクラブハウスも含めた会場内への入場の規制です。本資料では興行ではない、ごく一般的な競技会の開催を想定しておりますので、入場の制限が大会の運営に大きく影響をもたらすとは考えにくく、できるだけ来場者の制限をすることが、結果的に大会全体としての感染症対策に繋がる事は間違いありません。同時に来場規制の対象となる方々へ、規制の理由(例えば、選手や関係者の安全を確保するため)をハッキリと明示し、理解を得ることが大切です。それでも、受け入れる(受け入れたい)来場者がある場合(例:報道関係者等)、その受け入れ環境や来場にあたってのルール(例:取材規程等、後述あり)を慎重に検討し、受け入れる必要があります。



## 2. 競技当日の運営に向けた準備

競技会を開催するゴルフ場が既に一般営業の中で対応している事例も多いと思いますが、競技会においても運用できる方法を下記に記します。

### A. クラブハウスを中心とした諸設備の使用の検討

開催にあたり、検討することのできる設備には以下のような物があります。全ての施設(スペース)において、換気やこまめな消毒作業の徹底が必要です。

#### クラブハウスそのものの利用(立ち入り)制限

車寄せにおけるバッグの荷下ろしに關してのオペレーション変更(セルフ化)、チェックイン方法、エントリー・プレーの支払い方法の検討。

#### ロッカールーム

同時に使用する人数や各選手のスタート時刻を考慮したロッカー使用計画。上記を達成できない場合の使用制限(利用禁止)の検討。

#### フロント

極力、待機列を作らせないような運用、できる限りの簡素化の検討。来場チェック(氏名の申告)のみで済ませることができればチェックインスタッフとの接触時間も短くなり、結果的に混雑を回避することも可能になります。そのためにフロントにおいて選手の記帳(住所や連絡先)に代わる方法として主催者からの情報(許されるのであれば住所・連絡先等)の提供も検討してください。物理的な介在物(アクリル板やビニールシート等)を設置することも良い方法です。

#### 浴場

使用禁止や一部制限(湯船を使用せずにシャワーのみ)、脱衣所スペースのレイアウト変更等。

#### トイレ

ハンドドライヤーの停止、トイレの蓋を閉めての便器洗浄の励行、便座除菌クリーナー等の設置。

#### レストラン

当日の使用停止や一部制限(テーブルレイアウトの変更)。

#### キャディーマスター室(スタート室)

ゴルファーとスタッフの接点が多い箇所です。通常はゴルファーとの間に仕切り(ガラス等)がある事が多いですが、飛沫感染の防止以外にも、プレー後の伝票のやり取り、練習球用のコインの貸し出し方法等を工夫し、接触感染の防止にも心掛けてください。

#### 乗用カート

相乗り乗車を防ぐための検討(キャディー以外の乗車禁止等=選手の移動用機器の使用制限)、乗車中の会話の禁止等。

#### 手引きカート

プレー形式の1bag化(セルフ化)の検討。

#### その他

共有で使用する物を介しての接触感染の防止のため、例えばドアの常時開放(換気効果以外にもドアへの接触回避)、雑誌や新聞の撤去、靴ベラ、TVリモコン、血圧測定器等の撤去。フロントや売店のキャッシュレス化・サインレス化の検討。



日本女子オープン地区予選での風景。アクリル板が設置されたフロント



日本女子オープン地区予選での風景。検温スタッフはフェイスシールドを装着

### B. 備品の準備

#### 体温計

参加前の事前告知として、選手に対して検温を求め、その申告をしていただく事は発症者の出場を防ぐ意味では有効です。この場合あくまでも自己申告になりますので、さらに徹底するために大会(主催者)側としての検温の実施を検討してください。その場合、通常の体温計よりも非接触型の検温器やサーモカメラによる検温が効率上がることは間違いありません。本感染症は発熱を伴っていても陽性者である可能性もあるため、発熱の症状以外にも注意を払う事(大会側だけではなく参加者自身の意識を高める事)も大切です。

#### 手指消毒液の準備

こまめな手洗いを励行していく事は非常に重要ですが、アルコール消毒液や次亜塩素酸水の各所への配置はとて有効です。クラブハウス等共用する物が多く配置される施設への配置はもちろんの事、各組のカートへの配置が出来ればより効果があがります。

#### マスクの準備

全ての来場者に対しては着用をしての来場を依頼し、当日の紛失や破損等、何らかの理由により会場内で着用できない人に対して、提供をするための準備を検討してください。「1. 競技会開催前にできること」の項目にあるように申込受付の段階であらかじめ着用をお願いしておくことが重要です。

#### 選手向けの告知用掲示板

設置場所の検討、集中を避けるための同じ掲示物の分散掲示の検討。

### C. 競技運用

#### 規則や競技フォーマットにおける対応

(公財)日本ゴルフ協会ではホームページで「新型コロナウイルス感染症予防対策としてのゴルフ規則修正の指針」を発表しています。競技運営のための具体的な指針も示していますのでご参照ください。

参考

[http://www.jga.or.jp/jga/jsp/rules/news\\_detail\\_17265.html](http://www.jga.or.jp/jga/jsp/rules/news_detail_17265.html)

#### スタート時刻と出場人数

R&Aが公開している「新型コロナウイルス感染拡大のための活動制限の下でのUK(英国)のゴルフ(参考)」ではティータイム(スタート時間)は10分間隔にすることを記述があります。当日の参加人数を多くするためにスタート時間の間隔を短くすることや、出場人数が多くなることにより9ホール終了後、後半10ホール目に入るまでのインターバルの時間を長くとする事は、結果的に選手や関係者の密集度を上げ、感染の高リスク化に繋がる恐れがある事に留意すべきです。仮に参加者120名で4人組10分間隔(2way)の組み合わせを作ると、第1組から最終組までのスタート時刻は2時間20分となり、最初の9ホール終了後の滞留時間はそれほど多くはなりません。また、104名であれば2時間となり、一般的な4人組のプレーのペースであれば、ほとんど滞留時間を作らずにプレーすることが可能です。

参考

[http://www.jga.or.jp/jga/jsp/jga\\_news/news\\_detail\\_17145.html](http://www.jga.or.jp/jga/jsp/jga_news/news_detail_17145.html)

#### キャディーに関する検討

プレー開始前とプレー終了後のキャディーバッグのカートへの積み下ろし方法(セルフ化)の検討。マスクの着用、クラブ・ボールの手渡しの禁止、選手との距離感の確保、プレーそのもののセルフ化(キャディー無し)等の検討。競技会において距離計測器の使用を認めることでキャディー業務の一部を軽減することが可能になります。

## スターター（スタートホール担当者）

マスクの着用。できるだけ風通しの良い環境を作ること心掛けてください。例えば、テントであれば四方の横幕は張らずに屋根のみとし、売店等の小屋を使用する場合は常時ドアの開放や軒下等のスペースの使用を検討してください。選手に対してスタート時に諸注意事項や追加のローカルルール等の説明について、口頭による伝達ではなく文書での配布をすることはスタートホールにおける会話（飛沫感染のリスク）の減少に役立ちます。ソーシャルディスタンスの確保のために机の配置も検討してください。選手側と説明側の机をそれぞれ用意し、間を空けて配置することにより、必然的にソーシャルディスタンスの確保に繋がります。スコアカードを含めた配付物については手渡しではなく、テーブルに置いて選手にとってもらうこともできます。また、選手とスターターとの間に、物理的な介在物（アクリル板やビニールシート等）を設置することも有効です。スコアカードの交付やマーカーの指定についての規則としての対応は先述の別紙「新型コロナウイルス感染症予防対策としてのゴルフ規則修正の指針」2.(7)「スコアリング」に掲載されています。

## レコーダー （アテスト担当者・スコアカード提出所）

マスクの着用。スコアカード提出場所を検討してください。屋外等、極力の風通しの良い場所を選ぶことが必要です。また、選手とスコアカードを受け取る側との間に、物理的な介在物（アクリル板やビニールシート等）を設置することも有効です。スコアカードの提出についても「新型コロナウイルス感染症予防対策としてのゴルフ規則修正の指針」2.(7)「スコアリング」に掲載されています。

## レフェリー

マスクの着用。コース内を巡回する際の乗用カートの利用基準の検討。2名以上の同時乗車を極力避け、当日の他のレフェリーとの乗用カートの共用の禁止を検討してください。できない場合は消毒作業の徹底が望まれます。屋内・屋外にかかわらず、対話の際の選手やキャディーとの会話の際のソーシャルディスタンスの確保を心掛けてください。

## 成績発表（成績表）

一カ所に選手の成績を掲示することは「密集」の状況を作ることになります。ゴルフ場への滞在時間を極力少なくするために、プレー終了後、速やかに帰路についていただくように成績の発表は会場では行わずに、WEBへの掲示やメール配信のみにすることも検討してください。

## 表彰式

密集の状況を回避するために屋内での実施は極力避けてください。屋内・屋外に関わらず、利用できる環境（換気状況や広さ）と出席する人数（密度）を勘案して実施することが大切です。クラブ競技等においては、成績のみを確定し、後日改めて表彰の機会を設けることも可能でしょう。また、WEBでの表彰（オンライン表彰）も検討願います。

## 緊急時（荒天時）の対応

ゴルフ競技会において、悪天候時の対応は欠かすことのできないものです。降雨によるコースコンディションの悪化や日没による中断の場合は規則に従いながら選手各自のタイミングやペースでプレーを中断することもできますが、落雷による危険を伴う状況において、避難は規則上強制的に行われます。その場合に主催者（大会）側が用意することのできる避難のためのツールは一般的に、乗用カート、バス、一般車両（ワゴン等）があげられます。ここで起こりやすい事が、「密」の状況です。移動における車両内や乗用カート、避難先の避雷舎（小屋）やクラブハウス等、それまで広いコース上に散らばっていた選手やキャディーが一斉に避難場所に集中することになります。主催者は密の状況を作らないように早めの中断の決定（避難時間の確保）や避難ツール（車両など）の十分な量の確保、避難場所のスペース（単純な広さとして）の確保を想定しておかなければなりません。十分な避難場所の確保についてはゴルフ場の付帯施設（クラブハウスの他にカート庫やコース管理棟等）の利用も必要でしょうし、参加選手自身の自家用車を各選手の避難場所（1名1台）に指定することも必要かもしれません。そういった観点からもこの感染症に感染する可能性がある状況下においては出場人数が多くなりすぎないようにすることの検討は非常に重要になります。

## 取材規制

報道関係者による取材にあたってのルール作りが必要です。例えば、

- 1社あたりの人数制限
- インタビュー時の選手とのソーシャルディスタンスの確保（規制線の導入）
- 代表者によるインタビューの実施
- 個別取材の禁止
- テレビ会議アプリや電話を使用しての共同インタビュー

等、様々な方法の検討が可能です。



日本シニアオープン地区予選での風景。マスクを着用し、アクリル板で仕切られ、風通しの良い場所に設置されたアテスト



日本オープン地区予選での風景。スタッフはフェイスシールドを着用し、風通しのよい場所で行われるスタート説明の様子

## 3. おわりに

2020年5月29日現在、新型コロナウイルス感染症は国内において完全な収束には至っておりません。無症状の感染者による感染拡大が懸念され、知らずして他人を感染させる、他人から感染してしまう傾向が強い感染症であることが指摘されています。

ゴルフを含めたスポーツは健康増進のために役立つものではありますが、ゴルフは屋外の広いスペースを利用した、数あるスポーツの中でも比較的人口密度の低いスポーツではありますが、それでも感染リスクがゼロになる事はありません。政府や地方自治体から発信される情報や要請、指示を受け止め、競技会の開催にあたっては、完全なリスクの排除は難しい事を念頭において、出場者や関係者の協力を得ながらこのリスクを極力減らす事が重要になります。また、その安全性の確保が難しいと主催者自らが判断した場合は、政府や地方自治体の要請・指示の有無に関わらず大会の実施をあきらめる勇気を持つことも大切です。全ての関係者の目的の実現は国民の健康のもとに成り立つことを再認識することが重要になります。本資料に限定することなく、各団体や公的機関が出す情報を参考にして、開催の準備にあたられることを望みます。

監修：炭山 嘉伸 東邦大学理事 公益財団法人日本感染症医薬品協会顧問（前理事長）  
日本外科感染症学会名誉理事長 日本環境感染症学会名誉会員

参考資料：

- ・「スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」【(公財)日本スポーツ協会】
- ・「日本国内プロゴルフトーナメントにおける新型コロナウイルス感染症対策に関するガイドライン」【ゴルフ関連5団体新型コロナウイルス対策会議】
- ・「日本国内のゴルフ競技（非興行型）アマチュアイベントやプロも参加する小規模予選会を含む」における新型コロナウイルス感染症対策について【(公財)日本ゴルフ協会】
- ・「新型コロナウイルス感染症予防対策としてのゴルフ規則修正の指針」【(公財)日本ゴルフ協会】
- ・「新型コロナウイルス感染拡大のための活動制限の下でのUKのゴルフ(参考)」【R&A】
- ・(公財)日本ゴルフ協会ホームページより  
[http://www.jga.or.jp/jga/jsp/jga\\_news/news\\_detail\\_17145.html](http://www.jga.or.jp/jga/jsp/jga_news/news_detail_17145.html)  
[http://www.jga.or.jp/jga/jsp/jga\\_news/news\\_detail\\_17266.html](http://www.jga.or.jp/jga/jsp/jga_news/news_detail_17266.html)  
[http://www.jga.or.jp/jga/jsp/rules/news\\_detail\\_17265.html](http://www.jga.or.jp/jga/jsp/rules/news_detail_17265.html)

## ゴルフ場における新型コロナウイルス感染症対策について

### ゴルフ場の現場レポート

# 4月には来場者数が半減、 営業継続に匿名の批判も

コロナ禍はゴルフ場の現場にどのような影響を与え、ゴルフ場側はどのような対策をしてきたのか。3コース計63ホールを有する千葉カントリークラブの実例をレポートする。



来場者の検温はフェイスシールドをしたスタッフがしている



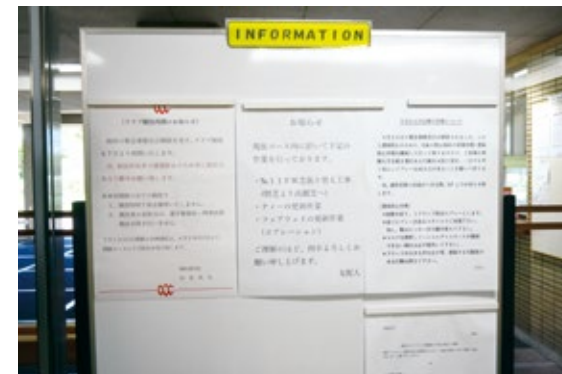
スタッフはマスクを着用し、4月にはフェイスシールドを設置し対策を強化した千葉CCフロント



テーブル同士を離し、ソーシャルディスタンスを確保して運営されているレストラン



クラブハウス入口に設置された消毒液と感染防止対策の案内



インフォメーションボードには今後の営業と感染防止対策の案内も掲示されていた

### 前例のない事態でも、様々な対策で柔軟に対応

「4月の来場者数は前年同月比で57%に落ち込みました。来場者も大部分がメンバーでゲストはほとんどいらっしゃっていませんから、営業収入は来場者比率をかなり下回っています」。そう話すのは千葉CCのスタッフ。甚大な影響があったことがうかがい知れる。

新型コロナウイルス感染症が国内で拡大していった3月、千葉CCでも対策に着手した。しかし、前例のない事態であるがゆえに何が正しいのかわからない。近隣のゴルフ場なども情報を交換しながら、手探り状態で対策を進めた。スタッフは早くから自発的にマスクを着用しており、やがてクラブハウス入口などに消毒液を設置。体調がすぐれない方や海外から帰国2週間以内の方などへの来場自粛をウェブサイトなどで呼びかけた。

4月には来場者への検温を開始し、フロントにはシールドを張って対策を強化した。「検温については『検問みたいで嫌だ』という方もいらっしゃいましたが、『検温してもらった方が安心できる』というポジティブな意見が多かったと感じています」(千葉CCスタッフ)。コロナ対策費用は取材した6月上旬時点で約140万円。当初は入手困難で値段が高騰したことから、スタッフ用のマスクにかかった費用が最も多かったという。千葉CCでは緊急事態宣言中も営業を続けたが組数を絞り、1ラウンドに限定。スループレー希望者には柔軟に対応し、5月は約3割がスループレーで回った(ただし7月1日より野田・梅郷コースでは熱中症対策としてスループレーを禁止し休憩を取るようになっている)。クラブ競技は6月いっぱい中止や延期。レストランはメニューを絞り、風呂はシャワーのみとした。ただ、営業を続けたことに対して「みんな自粛しているのになぜ営業しているのか」など匿名の批判も受けたという。

### 緊急事態宣言は解除されても不安は続く

3月は前年同月比74%、4月は前述したように57%にまで落ち込んだ来場数は、5月には65%とやや持ち直した。5月25日には緊急事態宣言が解除され、客足は戻りつつある。

それでも不安が払拭されたわけではない。そのひとつがキャディーの熱中症だ。キャディーが着用しているマスクは、通気性のいいものを使っているが、夏場にどれほど影響が出るかは未知数。またスループレーが増えればキャディーも休憩なしで行かざるを得ない場合があるため、熱中症のリスクが高くなることも考慮しなければならない。

千葉CCスタッフは「緊急事態宣言解除後もできる限りの対策はやっていますが、もし感染者が出たら.....など、日々、不安を抱えながらやっている状況です。それに1年で収まるのか、何年も続くのか先が見通せないことへの不安もあります」と心中を吐露する。新型コロナウイルス感染症との闘いは、まだ続いていく。

※紹介した内容は6月上旬(取材時)現在の取り組みで、現在は多少変更している。

## 巣ごもり生活が引き起こす肩こり、腰痛を撃退！

# JGAナショナルチーム流 エクササイズを大公開

コロナ禍で外出が極端に減った方は少なくないだろう。出社せずに自宅仕事でこなすリモートワークは、もはや馴染みの言葉になってきた。そのリモートワークなどでパソコンに長く向き合い、肩こりなど体の不調を訴える方が増えているという。そこで、自宅で簡単にできる肩こり、腰痛解消のエクササイズをJGAナショナルチームフィジカルコーチの栖原弘和氏から伝授してもらった。



図1

そもそもパソコンやスマートフォンが肩こりなどを引き起こすのはなぜか。「パソコンなどを使用する際には手が体の前に出て肩が内側に閉じ、頭が首よりも前に出るといった姿勢になりやすいものです(図1)。これは体に負担がかかる姿勢。長時間続けているとアッパークロスドシンドロームとなり、肩こりを引き起こすのです」と栖原氏。長時間の悪い姿勢は筋肉の硬化を招く。それだけでなく硬くなったところと反対の作用をする部分は活動が抑制されて弱くなってしまふ。アッパークロスドシンドロームとは上部僧帽筋と肩甲挙筋と大胸筋・小胸筋が硬くなることで、反対の作用をする首の前側の筋肉(頸部深部屈筋群)と中部・下部僧帽筋が弱くなるというもの(図2参照)。こうなると、前述の姿勢(写真1)がニュートラルになってしまい、正しいニュートラルの位置(写真2=骨盤の上に体がまっすぐに立ち、その上に頭がまっすぐに乗った姿勢)に戻せなくなってしまうのだ。

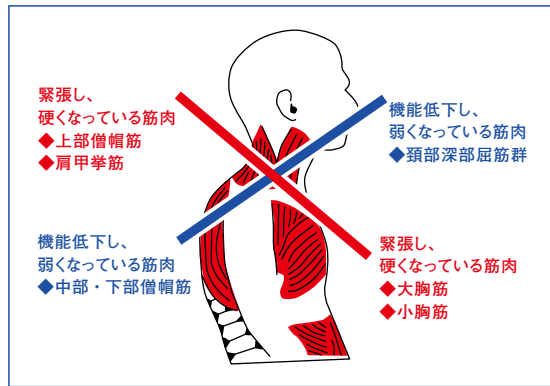


図2

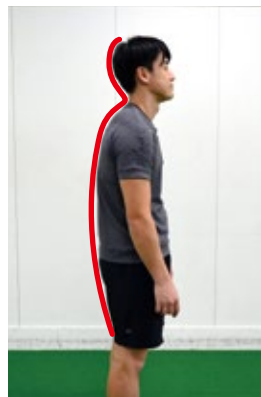


写真1

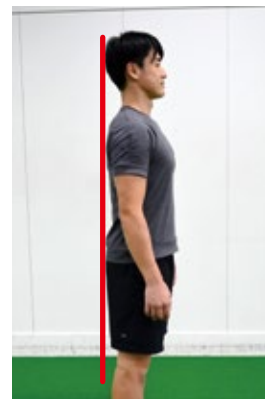


写真2

肩こりを治すには、アッパークロスドシンドロームを解消し、正しい姿勢に戻すことが大事。硬くなった部分を緩め、弱くなった部分を活性化させる必要がある。ここで紹介するエクササイズはそのために効果的なもの。「一日数回、時間をかけてやるよりも朝昼晩に5分ずつなどこまめにやるのが理想。無理をせず、出来る範囲で続けることが大事です。それに、姿勢が悪くなると体が回りづらくなりますからゴルフにもよくないです」(栖原氏)。姿勢が正しくなれば肩こり解消だけでなくゴルフにもプラスになるというわけだ。

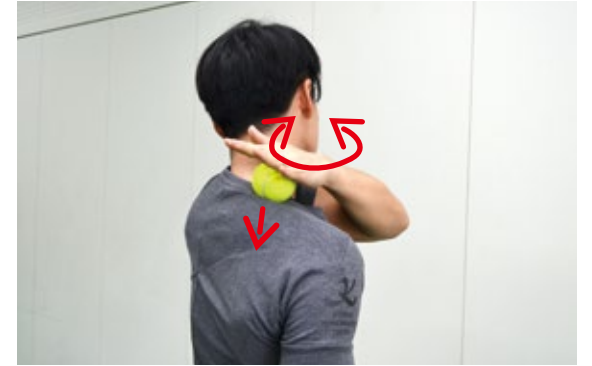
## 上半身のエクササイズ

### 胸、首などのセルフマッサージとストレッチ

① テニスボールで大胸筋など胸の筋肉をマッサージ。硬くなっている部分を探しながらテニスボールを転がすようにしてほぐしましょう。テニスボールがなければ手をグーにして代用。左右それぞれ30秒程度。



② 首も同様にテニスボールでほぐしましょう。左右それぞれ30秒程度。



③ 壁に手をつけ、胸を開くイメージでストレッチ。肩がすくんでしまうと胸が伸びないので、肩を下げるのがポイント。左右それぞれ30秒程度。



④ 首のストレッチ。片方の手を腰の後ろに置き、逆の手で頭の後ろをおさえて斜め前方に倒しましょう。胸を開き、腰の後ろに置いたほうの肩を下げると伸びやすくなります。左右それぞれ30秒程度。



後方からの写真



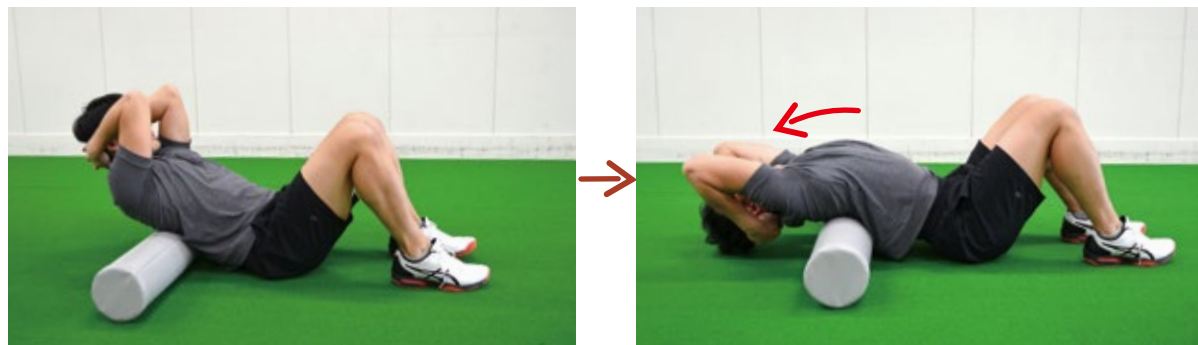
## ストレッチポールでリラックス

ストレッチポールの上に背骨をまっすぐに乗せるイメージで仰向けに寝ましょう。肩甲骨が重力で下がる感覚があればOK。胸が開き、体全体がリラックスできます。ストレッチポールがなければバスタオルを3枚ほど丸めて代用。30秒程度。

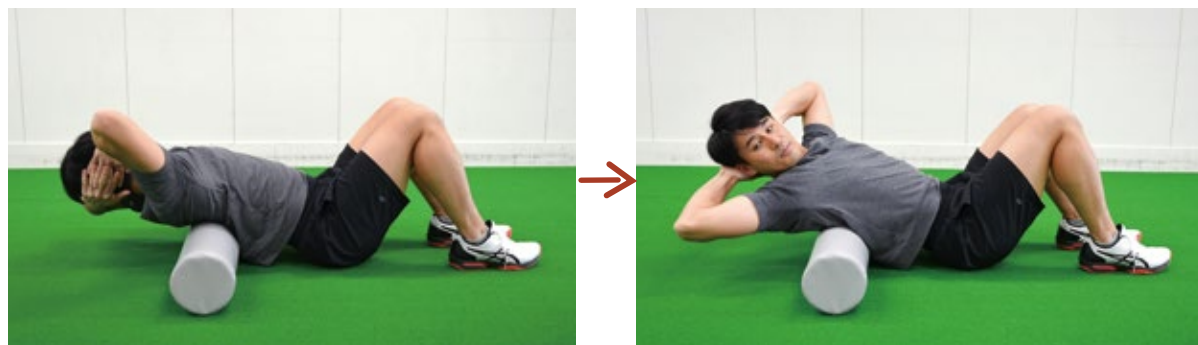


## ストレッチポールで胸椎伸展エクササイズ

① ストレッチポールを横にして、肩甲骨と腰の中間あたりに入れましょう。ひざは曲げた状態です。両手を頭の後ろに置き、両ひじを絞った体勢で息を吐きながら上体をゆっくり後方に反らしていきましょう。ストレッチポールが当たっている部分を支点にして体を開いていくイメージです。丸まっていた胸椎(背骨)が伸びていきます。反らしたら、ゆっくり元の姿勢に戻しましょう。ストレッチポールがなければバスタオルを3枚ほど丸めて代用。5回程度。



② ①と同様の姿勢から両ひじを開き、左右にゆっくりとひねり、背中と胸を伸ばしましょう。ひねった位置で3秒キープし、左右それぞれ2回程度。



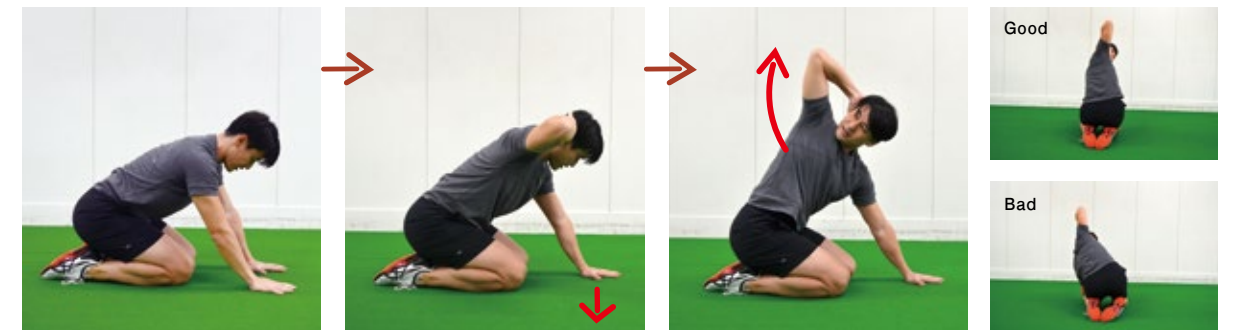
## 肩の拳上を抑える外旋エクササイズ

肩が上がり、首がすくむという悪い姿勢を正すエクササイズです。両手、両足を肩幅ほどに開き、直角に曲げた両ひじから前腕を壁につけ、体重を壁に預けましょう。ひじを支点にして前腕を片方ずつ外側に開き、元に戻す動きを繰り返します。首がすくまないよう、肩と耳を遠くに離すことがポイント。左右それぞれ5回程度。



## 胸椎伸展・回旋エクササイズ

正座の姿勢から両手を床につきましょう。片方の手を頭の後ろに当て、ひじを上げながら体をひねっていきます。視線は、最初は床を見たまま動かさず、ひねりきったらひじの方に移動。床に置いた方の手は、ひねるときに床を押すと肩がすくむのを防げます。左右それぞれ3~5回。



## 下半身のエクササイズ

下半身は腰(脊柱起立筋など)と股関節の前にある腸腰筋が硬くなり、腹筋とお尻の筋肉が弱くなりがち。上半身と同様に硬くなった部分を緩め、弱くなった筋肉を活性化させることが腰痛解消に繋がります。

## 腸腰筋のストレッチ

片方の足を前に出してひざを直角に曲げ、もう一方の足はひざを床につけて後方に置きましょう。ひざが痛いと感じる方はタオルを置くのがお勧め。お尻の上部に両手のひらを当て、骨盤を前方に押していきます。後ろ側の足の付け根が伸びている感覚があればOK。左右それぞれ5~10秒。



## 腰のストレッチ

両足を開いて床に座り、背中を丸めながら足の上に顔を埋めていきます。この時、視線をおへソに向ければ背中を丸めやすくなり、腰がよく伸びます。テーブルの脚など、何かつかむものがあればよりやりやすいでしょう。5～10秒キープ。



## お尻のエクササイズ

仰向けになって両ひざを曲げます。片側のひざを両手で抱えて体の方に引き寄せ、反対側の足はつま先を少し上げます。その体勢から、お尻を少し浮かせます。床に置いた足の方のお尻の筋肉が使われている感覚が出てくればOK。左右それぞれ5～10秒。



## 腹筋のエクササイズ

下半身のクロスドシンドロームは骨盤が前傾してしまいます。ニュートラルに戻すには腹筋のエクササイズが効果的。まず、ゴルフクラブなど棒状の物を両手を広げて持って仰向けになり、両ひざを曲げます。その体勢から骨盤を肋骨に近づけていくイメージで足の甲を棒の上まで持って来てください。できる方は棒の下に足を入れてみましょう。より効果が上がります。



# マッチプレーの 競技運営のガイドンス



マッチプレーは2人のプレーヤーが1ホールごとに勝ち負けを決定していくゲームであり、ゴルフの原点とも言われています。近代ではストロークプレーでスコアの合計を競うゲームが主流となっていますが、多くのナショナルアマチュア選手権や倶楽部チャンピオンシップではマッチプレーが採用されています。マッチプレーを運営する委員会はストロークプレーの規則との違いにより運営方法や裁定の手続きに戸惑うことも多いと思います。ここでは倶楽部でマッチプレーを運営する委員会のためのガイドンスをまとめました。

## 1. 競技の条件を定める

紛議の発生を事前に避けるための最も良い方法はその競技に必要とされる内容が明確に記載された競技の条件を作成し、すべてのプレーヤーに周知させることです。マッチプレーの場合、特に委員会が注意する必要がある競技の条件は次の通りです。

### (1) 欠場者が出た場合の措置

マッチの欠場者が出た場合、予選通過者から繰り上げが行なわれるのか、あるいは相手は不戦勝となるのかについて明記しておくべきです。また欠場の申し出の期限やその方法についても明記しておいた方が良いでしょう。

#### 【参考例】

「欠場する場合はマッチの前日までに委員会に連絡しなければならない。期限内に欠場の申し出があった場合、そのマッチを相手にコンシードしたことになり、そのマッチは相手の勝ちとなる。」

### (2) 組合せ

マッチプレーの組み合わせについては委員会が決定できますが、その方法について明記しておいた方が良いでしょう。

#### 【参考例】

「マッチプレーの組み合わせは委員会がゴルフ規則のオフィシャルガイド「競技会・5F」に記載の表に基づいて決定する。なお、予選の結果がタイの場合、スコアが提出された順番によって組合せを決定する。」

### (3) 練習の制限

マッチプレーではマッチの開始前にコース上で練習することができます。委員会がこの練習を禁止したい場合はローカルルールを制定する必要があります。

#### 【ローカルルールひな型 1-1.1】

規則5.2aは次のように修正されます：  
プレーヤーはラウンド前やラウンドとラウンドの間にコース上で練習してはならない。

このローカルルールの違反の罰：

- 最初の違反の罰………最初のホールの負け
- 2回目の違反の罰………失格

### (4) タイの決定

マッチが所定のラウンドを終了してもタイであった場合、規則 3.2a (4) に基づいて自動的にラウンドが延長されます。それ以外の方法、例えば最初のホール以外の特定のホールからマッチを延長する場合や、マッチをタイのまま終了させる場合にはそのことを明記しておかなければなりません。

### (5) マッチの結果

マッチの結果がいつ最終となるのかはマッチプレーにとってとても重要な時限となります。原則としてマッチの結果が最終となった後にはそのマッチの結果は修正できないからです。したがって、委員会はマッチの結果が最終となる時点を必ず明記しておかなければなりません。

マッチプレーの場合、スコアカードを提出するという概念はありません。その代わりに委員会はマッチの結果を報告する場所と人を決めておくべきです。

#### 【参考例】

「結果を公式のスコアボードに記録したときに、そのマッチの結果は最終となる。」  
「勝者が結果を委員会が指定した人に報告したときに、そのマッチの結果は最終となる。」

### (6) マッチを終了する期限

通常は委員会がマッチのスタート時間を決め、委員会による中断がなければ、速やかなペースでマッチがプレーされて終了することになるでしょう。一方で、委員会はマッチプレーのプレーヤー達にマッチの開始時間を任せて、終了する日時だけを定めておくこともできます。

#### 【参考例】

「マッチNo1は5月20日の18時00分までにそのマッチの結果を委員会に報告しなければならない。この時間までに報告しなかった場合、両方のプレーヤーは失格となる。」

### (7) マッチの結果の表記

マッチの結果をどのように表記すべきかについて下記をご参考下さい。

- 欠場の連絡があり、  
マッチをコンシードしたものとみなす場合  
………マッチコンシードでAの勝ち
- 無断欠場、遅刻により失格  
………Bの失格によりAの勝ち

- 3ホール残してAの4アップ  
………4 & 3でAの勝ち
- エキストラホール20ホール目でAの勝ち  
………20H1アップでAの勝ち
- 15番ホール終了後でBが棄権  
………15番終了後、マッチコンシードでAの勝ち

## 2. 委員会/レフェリーの裁定

### (1) 同意による問題解決

マッチプレーでは2人のプレーヤーが相互に利害関係を持っているので、規則問題をマッチのプレーヤー間の同意で解決することができます。そして、その同意が規則上間違っていたとしても最終のものとなります。ただし、レフェリーが同行している場合はそのレフェリーの裁定に従わなければなりません。

なお、両方のプレーヤーが正しい規則を知っているのに、故意にその規則を無視することに合意することはできません。この違反は失格となります(規則1.3b(1))。

### (2) レフェリーがマッチに同行する場合

マッチの最初から最後までレフェリーがマッチに同行する場合、規則問題はすべてそのレフェリーが裁定をします。

### (3) レフェリーがマッチに同行しない場合

倶楽部競技ではレフェリーがマッチに同行しない場合が多いと思います。レフェリーがマッチに同行しない場合、プレーヤーから裁定の要請がなければ、レフェリーはそのマッチの規則問題に介入してはいけません。

レフェリーが同行していないマッチで規則問題が起きた場合は「裁定の要請」という手続きがあります。なお、マッチプレーではストロークプレーのように2つの球をプレーしていった裁定を求めることはできません(規則20.1b(4))。



### 【認められる事例】

球が地面の不正箇所に乗っているが、それが修理地で罰なしの救済を受けられるか分からない。相手と相談して、罰なしの救済が認められることの同意を得て、救済を受けてプレーした。

### 【認められない事例】

今日はローカルルールで距離計測機の使用が禁止されていることは知っているが、このマッチの2人だけは使ってもいいことにしようと言って規則を無視することに同意した。

### (4) 裁定の要請

マッチプレーは1ホールごとに勝ち負けを決定するので、そのホールの結果を先延ばしにすることはできません。したがって規則問題が起きた場合に次のホールに進む前に解決する必要があります。しかし、レフェリーがいない場合、プレーヤー間で正しい規則に基づいた解決ができないことがあります。この場合、その規則問題を一旦保留にし、後で裁定をしてもらうことにしてマッチを進めることができます。この規則問題を一旦保留にすることを明確にするために裁定の要請という手続きがあります。簡単に言うと、「今レフェリーがいないので、この問題については後でレフェリーに裁定をしてもらうことにします」という意思をプレーヤー間で共有してマッチを進めるという手続きです。

#### ① 裁定の要請の方法

「この事実について後で委員会、レフェリーに裁定を求めます。」ということを手相に知らせます。

#### ② 裁定の要請の時限

裁定の要請は次のホールのプレーをどちらかのプレーヤーが始める前にしなければなりません。最終ホールの場合はマッチの結果が最終となる前にしなければなりません。この時限を過ぎた場合、裁定の要請をしても無効となります(ただし③参照)。

#### ③ 時限が過ぎていても、裁定の要請を委員会が取り上げる場合

相手が正しいストロークや罰を報告しておらず、その規則問題が次のホールをプレーする前には知らなかった事実であった場合は、時限が過ぎて行われた裁定の要請についても委員会は裁定をします。

### (5) 紛議が起きたときに委員会/レフェリーが確認する事項

マッチを終えてクラブハウスにプレーヤーが戻ってきてから、そのマッチに関する規則紛議が起きることも少なくありません。その場合、委員会は次のことを確認する必要があります。

#### ① 裁定の要請があったかどうかの確認

紛議を申し出たプレーヤーが、裁定の要請を時限内にしていたかどうかをまず確認します。もし時限内に裁定を要請していなければ、(4)③以外の場合はマッチの結果は変わらずそのままとなります。

#### ② 裁定の要請が時限内に行われていた場合

委員会はその規則問題に対して裁定をし、必要であればそのホールのマッチの結果を修正します。その修正の結果、マッチの決着がまだついていないということになれば、マッチの続きをプレーするようプレーヤーに伝えます。

### 【裁定の要請が無効となる事例】

3番ホールで相手が規則違反をしているかも知れないと思ったが、その場では何も言わず、4番ホールのプレー中に「さっきの3番の行為は違反ではないか?裁定を要請します」と言っても、もはや時限を過ぎていたので裁定の要請を委員会が取り上げることはなく、3番ホールの結果はそのままとなります。

### 【時限を過ぎた裁定であっても委員会が裁定を行う場合】

3番ホールでプレーヤーAは林の中で自分の球を動かしてしまいがリプレースせずにプレーした。Bはそのことを見ていなかったし、AはBに何も言わず、3番ホールはハーフとなった。4番ホールのティーショットをプレーした後、BはAが球を動かしたという事実を知らされたのでその時点で裁定の要請をした。この場合、委員会は裁定を行わなければならない、3番ホールはAの負けとなり、マッチの状態を修正する。

#### ③ マッチの結果が最終となった後に紛議が起きた場合

マッチの結果が最終となった後に紛議が起き裁定の要請があった場合は、その要請がマッチの結果が最終となった後にはじめてプレーヤーが気づいた事実であり、相手はその事実についてマッチの結果が最終となる前に気づいていたのに正しいストロークや罰を教えていなかった場合にのみ委員会は裁定をします。

### 【理解のための補足】

時限が過ぎた裁定の要請を委員会が取り上げる場合とは、相手が正しい事実を知らせておらず、またプレーヤー本人も見えていない事実であり時限内には知るよしもなかったことが、時限後に発覚した場合と考えると分かりやすいと思います。

### 3. プレーヤーに対する注意事項

マッチプレーの経験があまりないプレーヤーにマッチプレーの規則の簡単なガイダンスを提供することで紛議の発生を避けることができるかも知れません。以下はストロークプレーとは異なるマッチプレーの規則に対する簡単なガイダンスの例です。

#### マッチプレー規則の簡単なガイダンス

マッチプレーは2人のプレーヤーがホールごとに勝敗を決定していくゲームです。2人のプレーだけの利害関係なのでストロークプレーと異なる処置や罰が設定されています。下記はコース上でよく使用されるマッチプレーの規則に関するガイダンスです。

- 救済処置の手続きはストロークプレーと同じです。
- 原則としてストロークプレーの1罰打はマッチプレーでも1罰打です。
- 原則としてストロークプレーの2罰打はマッチプレーではそのホールの負けとなります。
- マッチのプレー中、相手のストローク数をいつでも尋ねることができ、尋ねられたプレーヤーは正しいストロークを相手に教えなければなりません。違反はそのホールの負けとなります。
- 罰を受けた場合、相手に罰を受けたことを知らせなければなりません。違反はそのホールの負けとなります。
- ティーイングエリアの外からプレーしても罰はなく、相手はそのストロークを取り消して再プレーを要求することができます。
- 打順を間違えても罰はなく、相手はそのストロークを取り消して再プレーを要求することができます。
- 誤所からのプレーをした場合はそのホールの負けとなります。
- 誤球のプレーをした場合、先に誤球のプレーをしたプレーヤーがそのホールの負けとなります。
- いつでもマッチの勝ちを相手に譲る(コンシードする)ことができます。
- いつでもホールの勝ちを相手に譲る(コンシードする)ことができます。
- いつでも次のストロークをコンシードし、次のストロークでホールに入ったことにできます。
- コンシードは明確に相手に伝える方法(口頭、ジェスチャー)で行って下さい。
- キャディーはコンシードをする権利はありません。
- コンシードされた球でプレーを続けても練習ストロークにはなりません。
- 一度出されたコンシードは辞退したり、撤回することはできません。
- ホールのプレー中、規則について疑問がある場合、両者で合意して解決をすることができ、その合意は最終のものになります。ただし、規則を知っているのに、規則を無視することに合意することはできません。
- ホールのプレー中、規則問題が解決できない場合、次のホールをプレーする前に相手に「裁定の要請をする」ことを明確に告げて、マッチを進めて下さい。そして委員会/レフェリーに裁定の要請を出したことを伝え、裁定をしてもらって下さい。
- 「裁定の要請」は次のホールのティーショットをプレーする前にしないと無効となります。
- 相手の規則違反を見ていても何も言わず、裁定の要請もしていなければ、次のホールのプレーをした後はもはやそのホールの結果はそのままとなります。
- ストロークプレーのように疑問が起きたときに2つの球をプレーすることはできません。
- 18番を終えてマッチがタイで、ラウンドを延長する場合、クラブを取り替えることはできません(つまりエキストラホールは別のラウンドではなく同じラウンドとなります)。